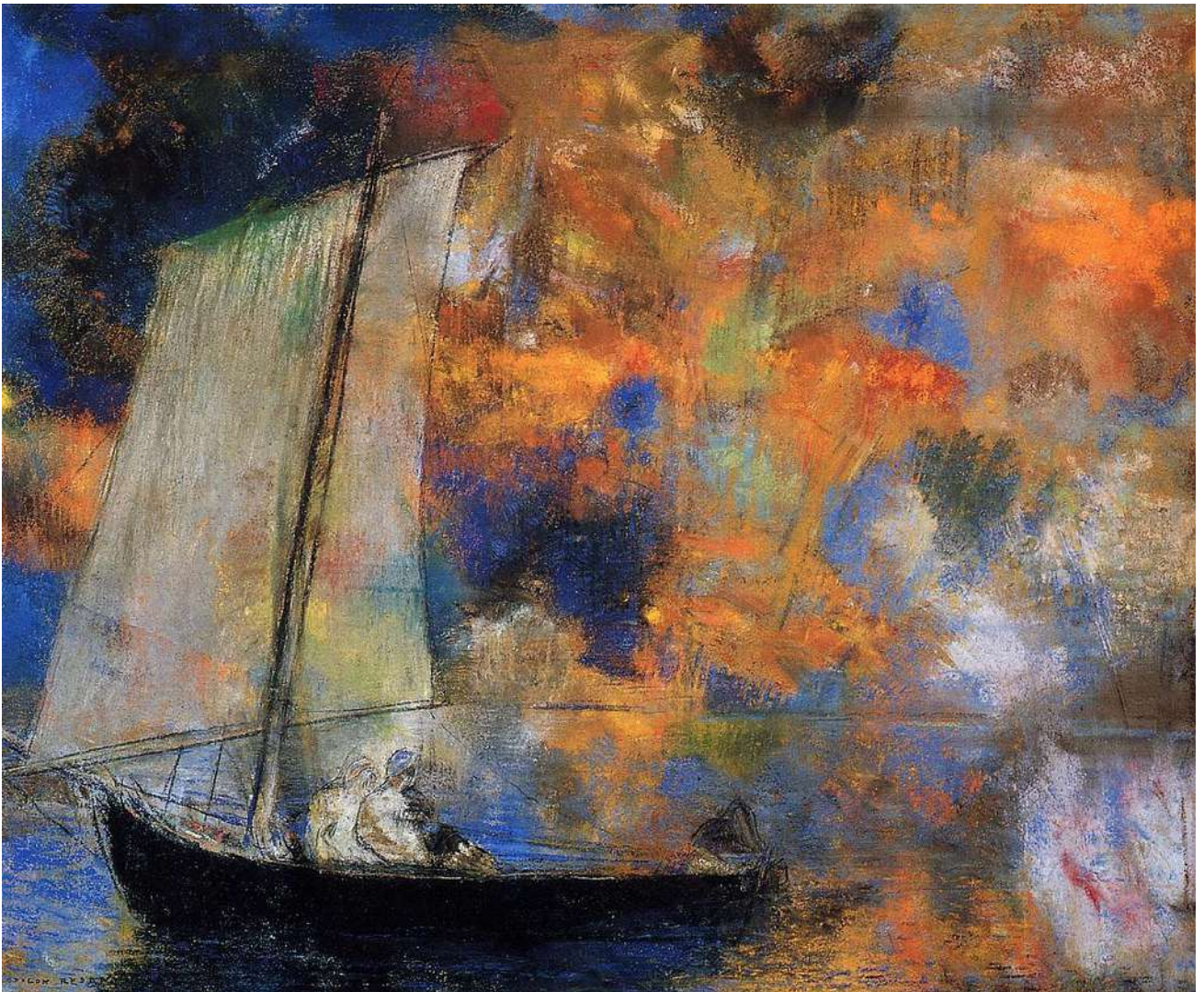

発達理論の学び舎

Back Number: Vol 146

Website: 「[発達理論の学び舎](#)」



目次

- 2901. 【オランダ国内小旅行記】オディロン・ルドン特別企画展を鑑賞して@クレラー・ミュラー美術館
- 2902. 【オランダ国内小旅行記】クレラー・ミュラー美術館とデ・ホーヘ・フェルウェ国立公園の素晴らしさ
- 2903. 【オランダ国内小旅行記】オッテロー出発の朝より
- 2904. 【オランダ国内小旅行記】芸術性と霊性を開拓する道の探究
- 2905. 【オランダ国内小旅行記】ズヴォレに向かう列車の中から
- 2906. 旅を終えて
- 2907. 緩やかな時の流れ:一つの巨大な作品に向けて
- 2908. 日曜日の終わりから
- 2909. 芸術教育と霊性教育に関する夢
- 2910. 決着の日に向けて
- 2911. 創造物からのフィードバック
- 2912. 八月末の北欧旅行について
- 2913. 夏の朝の夢
- 2914. GREに向けた学習について
- 2915. 再渡米とEU圏の永住権
- 2916. 雷雨の前に
- 2917. 芸術教育と霊性教育の探究に向けて
- 2918. 芸術教育と霊性教育の探究に向けた出発点
- 2919. 涼しい夏の正午より
- 2920. 夏の恵み

今日は夕方までずっと、デ・ホーヘ・フェルウェ国立公園と公園内にあるクレラー・ミュラー美術館にいた。先ほど夕食を摂り終え、今日の振り返りとしてこの日記を書き綴っている。

午前十時にホテルを出発し、国立公園の西門に向かう頃には徐々に気温が上がってきていた。今日は36度にも達するほどの猛暑であり、その予兆はすでにホテルを出発した時からあった。

ホテルから西門までの道のりは、去年の秋にも歩いたことのある道である。しかし、秋と夏とではそこに広がる風景が全く異なっており、私はその景色を初めて見るかのように目を見開きながら歩いていた。

道沿いには牧場があり、一頭の牛を見かけたとき、そばに近寄ってしばらく牛の様子を観察していた。牛は私のことを気にもとめず草を食べ続けていた。しかしある瞬間に、牛が頭を上げ、どこか遠くの方を眺め始めた。牛が何を見ていたのかは定かではないが、その牛はとにかく一点だけを凝視していた。そんな牛の様子を私はずっと眺めていた。その牧場には、牛以外にも、ヤギやニワトリが小屋の中で飼育されていた。それらの動物にも私は関心を持ち、立ち止まってしばらく眺めていた。

これといって観察する目的などなかったのだが、私はぼんやりと動物たちを眺めながら微笑ましい気持ちになっていた。そこから再び歩き始め、西門に到着し、そこで公園の入園料に合わせて美術館のチケットを購入した。

西門をくぐると、そこには駐輪場があり、無数の自転車が置かれている。それらは全て無料で貸し出されており、私は一台の自転車を選び、それに乗ってクレラー・ミュラー美術館に向かった。美術館に向かう最中の道がどこか懐かしく、自転車でその道を走るととても心地良かった。確かに早朝から気温は上がっていたが、木陰は涼しく、風は爽やかであった。

無事に美術館に到着し、入館してすぐにオディロン・ルドンの特別企画展に向かった。この企画展は本当に今日のハイライトだ。期待していた以上に多くの作品が飾られており、ルドンの代表作も

多く、本当に見飽きることがなかった。午前中の全ての時間をルドンの企画展に充てていたように思う。

ルドンについては色々と書き留めておきたいことがあるため、今後の日記の中で少しずつ文章として書き留めておきたい。今回の日記では備忘録として、幾つかを列挙しておくことに留める。まずは、ルドンの認識世界の特性についてである。ルドンは幻想的な作品で知られるが、彼の一連の作品群を眺めてみると、幻想的と形容できないような、よりダークな絵画作品がたくさんある。それこそルドンはキャリアの初期においては、晩年の幻想的な色使いとは程遠く、白と黒だけを用いた絵を描いていた。それらの絵の特徴は、何と言ってもルドンの無意識の深い層から生まれ出たと思われるような人間の暗部を象徴しているということである。

何気なく眺めた白黒の絵に引き込まれてしまうような感覚を持ったのは一度ではなかった。それとは対照的に、キャリアの半ばから用い始めた幻想的な色使いの作品は傑作が多い。ルドンの鮮やかな青は本当に息を飲む。数ある作品の中で一点だけ選ぶとするならば、“The Church Window”という作品が最も私を捉えた。

絵の中の教会の窓の向こうには、どこか宇宙を思わせるような色使いがなされており、この作品を見ていると、違う世界へいざなわれていくような感覚があった。この作品に描かれていた窓は、まさに天上界への扉だったと言っても過言ではない。私はこの作品の前で最も長く時間を過ごした。

その他にもいくつも印象に残っている作品がある。“The Mystic”という作品を見たとき、それは先日購入したマラルメの詩集のペーパーバックの表紙に使われているものであることに気づいた。どうしてマラルメの詩集にその作品が使われていたのか気になっていたところ、ルドンとマラルメが非常に仲が良かったことを知った。この作品のモチーフになっている人物とマラルメの詩作のモチーフには重なるものがあるのではないかと思う。

ルドンの特別企画を一度見終えた後、常設作品を見てからもう一度ルドンの作品で気になるものを鑑賞し直した。帰り際にギフトショップに立ち寄り、この特別企画に合わせて出版された200ページほどの画集を購入した。今ホテルの自室でその画集を高揚した気分で眺めている。オッテロー：

2018/7/27(金)20:30

I can't forget nature in Ainola, which I saw yesterday. It looked as if nature shaped a cradle to embrace the land. Helsinki, 08:15, Saturday, 9/1/2018

2902.【オランダ国内小旅行記】クレラー・ミュラー美術館とデ・ホーヘ・フェルウェ国立公園の
素晴らしさ

改めて今日訪れたクレラー・ミュラー美術館での体験を思い返している。今しがたもう一度ルドンの特別企画展のパンフレットに目をやると、合計で167点もの作品が展示されていたようだ。道理で展示量に充実さを感じたわけである。

一ヶ月前にロンドンのナショナル・ギャラリーを訪れた時、そこにはルドンの作品が一点だけしか飾ってなかった。ただし、その一点が秀逸な作品であり、ルドンを代表する作品であった。ナショナル・ギャラリーの中では、それはターナーの作品と並んで最も私の印象に残っている作品だった。

本日あれほどまでに多くのルドンの作品に触れることができた幸運と、貴重な画集を購入できたことを本当に嬉しく思う。明日からフローニンゲンに戻るが、今後も折を見てこの画集を眺めたい。

これはいつか実現させてみたいと思っていたことだが、自分を惹きつけてやまない絵画作品から得られる感覚を是非曲として表現したい。その時には、私は必ずルドンの作品のいくつかを取り上げるだろう。今はまだそのような技量はないが、いつか必ずそれを実現させたいと思う。そのために今日があり、明日以降の日々があるのだ。

デ・ホーヘ・フェルウェ国立公園内にあるこの美術館は、自然と美が見事な調和をなしている。美術館の敷地は広大であり、その広大な敷地に世界中の彫刻家の作品が合計で160点置かれている。それらの彫刻を見て回る散歩コースがあり、それ専用の地図もあるぐらいだ。私もその地図を入手し、館内の作品を全て見た後に少しばかりこの彫刻庭園を散歩をした。

今日は灼熱の暑さであったが、自然の中の日陰はなんと涼しいことだろうか、と改めて思った。また、その静寂さに私は思わず息を飲んだ。人の声が聞こえないような森の中で、私は一人になって自然の音を聞いていた。通り過ぎていく風の音や小鳥の鳴き声。風に揺られる木々の葉の音は耳に

とても心地良かった。それは、自然の中に身をまかせることがいかに自分を落ち着かせるかを改めて気付かせてくれるような体験だった。やはり私はいつか自然に還りたいと思う。

自然の中で生活することを近い将来始めたいと思う。自分が自分に還れるのは、いや自分が人間に還れるのは都会の中ではなく自然の中なのだと強く思う。

クレラー・ミュラー美術館は、アムステルダムにある主要な美術館にも負けないぐらい、一年を通して世界中から多くの人がここを訪れる。その数は40万人とのことである。

ルドンの特別企画展を見た後に足を運んだ、ゴッホの作品群がまさにこの美術館の目玉だと言えるだろう。約90点の絵画作品と約180点の素描画をこの美術館は所蔵している。今日も改めてゴッホの作品を見たが、やはり幾つかの作品には私を捉えてやまないものがあつた。この美術館は何度訪れても飽きることがない。今すぐにではないが、いつかまたこの美術館を訪れたいという気持ちになった。

美術館を後にした私は、せっかくなので借りた自転車で国立公園のサイクリングロードを走ることにした。美術館を後にした時間帯はちょうど灼熱のような暑さを持っており、砂漠地帯を彷彿させるような暑さがそこにあつた。自転車を漕いでいる時は涼しい風が吹いているのだが、とにかく日差しが強かつた。太陽からの日差しと地面からの照り返しが強かつた。だが不思議と汗はほとんどかかなかった。

結局今日は野生の羊やイノシシに遭遇することはなかった。彼らもこの暑さのためにどこかに身を潜めていたのかもしれない。

5,500ヘクタールの広大な森、平原や砂地の景色、クレラー・ミュラー美術館のすぐれたコレクション、彫刻庭園など、この場所の見所は本当に尽きない。改めて今回この場所をもう一度訪れることができて本当に幸せであつた。この幸福感を持ち帰り、明日からの活動に励みたいと思う。オッテロー：
2018/7/27(金)20:59

オッテローを去る日がやってきた。二泊三日の小旅行は充実感と共に本当にあっという間に過ぎ去っていったように思う。昨日のクレラー・ミュラー美術館での体験、そしてデ・ホーヘ・フェルウェ国立公園での体験は今後も忘れることはないだろう。

オッテローを出発する日の朝は、この二日間と同様にとても静かだった。カッコウの鳴き声が遠くの方から聞こえて来る。六時に起床した時、オッテローは晴れていたのだが、今日は午前中から昼過ぎまで雷を伴う雨が降るらしい。この二日間、異常なほど気温が上がっていたため、それを調整するかのように雷雨が降るようだ。調べてみると、これはフローニンゲンも同じようであり、フローニンゲンは雨が降り始めるのと降り終わるのがオッテローよりも少し遅い。そうしたことも考えて、今日はホテルのチェックアウトの時間近くまでホテルでゆっくりし、11時のバスに乗ってアーネム中央駅に向かう。このスケジュールで動いていけば、フローニンゲン中央駅には午後の二時に到着する。

午後三時過ぎまでフローニンゲンでは雨が降るようであるから、駅構内のカフェで雨宿りをしたいと思う。これ以上早い時間帯の電車で帰ったとしてもオッテローでは雨が降っており、フローニンゲン中央駅ではさらに多くの時間を雨宿りしなければならない。それよりも遅い時間帯の列車に乗ることはホテルのチェックアウトの時間の都合上難しい。そうしたことも踏まえると、ホテルを11時前に出発するのが最善だと判断した。

フローニンゲンの自宅に到着するのは夕方になるだろう。今日はフローニンゲンの駅構内のスーパーで夕食を購入し、自宅に戻ってからは料理をしないようにする。

今回はオランダ国内旅行であるから旅の移動による疲れもほとんどないだろう。自宅に帰って荷ほどきをし、ゆっくりと浴槽に浸かってから夕食を摂る。そこからはもういつも通りの生活に戻るだろう。

フローニンゲンもオッテローに負けないぐらい、ここ二日間は異常なほどに暑かったようだ。そこから一転して今日からはまた涼しくなる。八月を目前にして、夏の調整が入ったようである。明日明後日までは30度近くまで気温が上がるが、フローニンゲンでのそれは大した暑さを感じさせない。火曜日以降からは再び25度前後の気温となり、来週の土曜日には最高気温が23度まで下がる。今日か

ら来週の土曜日にかけて、一日単位で緩やかに気温が下がっていく様子を伺うことができ面白い。

今日は自宅に戻ってから、早速GRE試験に向けた単語学習を再開させたい。今回の二泊三日の小旅行には単語集を持ってくることをしなかった。今夜から再び学習を再開させる。明日は丸一日時間があるため、計画的に学習を進め、一気に単語集の二周目を終わらせたいと思う。そうすれば八月からは単語週の三周目に入ることができる。そこからは単語集の全体を見る時間がより短縮されるだろう。

それに並行して八月からはGRE試験の提供会社であるETSが出版している対策問題集に取り掛かる。すでに英語のセクションについては少しばかり問題を解いており、その続きを進めていく。特に今回はライティングセクションの対策をしっかりと行いたいと思う。試験までは三週間ほどあるため、ここから徐々に試験問題に体を慣らしていく。それを焦って行うのではなく、試験日にピークを迎えるように徐々にやっていく。問題集に収められている本番と同形式の模擬試験は二セットあり、オンライン上にもう二セット存在する。八月の初旬に問題集に収められている二セットの模擬試験をまず解き、試験10日前から感覚を空けてオンライン上の問題を本番さながらに解いていきたいと思う。

GRE試験を受けるのは今回が最後になるであろうから、できる限りの対策をして、四年前の成績を超えるようにしたいと思う。今夜からの学習がまた楽しみだ。otte:2018/7/28(土)07:06

No.1173: Wind from the Baltic Sea

While walking in Helsinki, I can feel the wind from the Baltic Sea. It is alone, whereas it is not so because the wind is connected with everything in the world. Helsinki, 09:35, Saturday, 9/1/2018

2904.【オランダ国内小旅行記】芸術性と霊性を開拓する道の探究

ホテルをチェックアウトするまで時間のゆとりがあるため、作曲や過去の日記の編集を進めたいと思う。とにかく旅にはゆとりが大切だ。旅先では慌ただしく動いてはならない。今回の旅のように自然の中にいる時はなおさらだ。今日もホテルの朝食を楽しみにしている。今日は昨日よりも一時間遅く、九時半に朝食を食べたいと思う。ホテルのチェックアウトを11時前にする予定であるから、朝食も

ゆっくりと食べることができる。もしかしたら朝食時にはすでに雨が降り始めているかもしれない、今日は屋内で朝食を食べようと思う。

今、オッテロー村上空の天気は幾分複雑だ。太陽の光が地上に差し込んでいるのだが、空には多数の雲があり、その雲の幾つかは雨雲のように色が濃い。これはもうしばらくすると本当に雷雨が降ってきそうだ。雨のオッテローもきっと風情があるに違いない。幸いにしてバス停はホテルから近いため、持参した折り畳み傘を携帯し、バスがやってくる少し前にバス停に到着しようと思う。

昨日にクレラー・ミュラー美術館を訪れた際に、また新たな関心が生まれた。それは非常に具体的な関心であり、美術館の中で提供される芸術教育に関するものである。たいていどこの美術館でも子供向けと成人向けの芸術教育プログラムが提供されている。これは絵画の解説が主だが、それはどのような思想のもとに、またどのような教育理論のもとになされているのかに強い関心を持った。

美術館というのは私たちに非日常意識をもたらすものであり、そこでの教育効果を最大限活用することができれば、私たちの芸術性と霊性の双方を涵養できるのではないかと思うに至った。これについてはどのように探究していけばいいだろうか。実際に自分でもそうしたプログラムを受講するということが一つ考えられる。しかし、おそらくそれは一人で受けられるようなものではなく、たいていはある程度の人数のグループで受けるようなものだろう。

改めて、二年前に在籍していた「創造性とタレントディベロップメント」のプログラムでお世話になっていたルート・ハータイ教授にコンタクトを取り、美術館とのコネクションがないかを尋ねてみたい。仮にフローニンゲン大学がどこかの美術館と提携していれば、インタビューなどを兼ねて、美術館が提供している芸術教育プログラムについて色々と話を聞いてみたいと思う。

美術館で提供されるものはどれも絵画を中心としたものであり、それに加えて音楽に関する一般市民向けの教育プログラムも何かないかを探したい。音楽院で提供されているのはおそらく音楽経験のある玄人向けや音楽を専攻する学生向けのものが多いだろうが、一般市民に開放されたプログラムがないかを探してみたい。また、ピアノの演奏を含めた、音楽教室と呼ばれるものが、どのような

教育思想に立脚し、どのような教育理論を活用しているのかについても調査をしてみたいと思う。
絵画と音楽。それらはもう私の人生に不可欠のものとなった。

絵画と音楽を媒介にした芸術教育と霊性教育について、これからゆっくりと探究を深めていく。ここに私たちの眠った芸術性と霊性を開花させる何かがあるに違いないと感じている。欧州での三年目の生活ではそれが何かを探り当て、現代人の芸術性と霊性を開拓する道を明らかにしていきたい。otte:2018/7/28(土)07:28

No.1174: A Summer Night in Helsinki

The fourth day to stay in Helsinki is approaching the end. The sun almost sets. Tomorrow is the last day to enjoy this city. Helsinki, 20:45, Saturday, 9/1/2018

2905.【オランダ国内小旅行記】ズヴォレに向かう列車の中から

otte村のホテルを出発し、今はズヴォレに向かう列車の中にいる。ホテルで朝食を摂る一時間ぐらい前から突然強い雨が降り始め、朝食を摂る頃には雨脚が弱まった。

ホテルの朝食は昨日同様に新鮮であり、とても満足のいくものだった。ゆっくりと朝食を摂った後、少し早めにホテルのチェックアウトをした。チェックアウトの際に、受付の方に確認し、自室に備え付けられていた系列ホテルのポケットブックを持ち帰っていいのかを確認した。すると、受付の方は笑顔で大丈夫だと述べた。そのポケットブックには、昨日の日記で書き留めていたように、自然を堪能できる系列ホテルが美しい写真と共に数多く掲載されている。どのホテルもいい価格なのだが、いつかこのポケットブックに掲載されている幾つかのホテルに宿泊してみたいと思う。

チェックアウトを済ませた後、バスの出発時間までまだ時間があつたため、ホテルのロビーのワークスペースで過去の日記を編集することにした。すると突然、再び雨が降り始めた。出発の30分前に雨が降り出し、これは折り畳み傘を広げながらバス停に向かう必要があると思った。しばらく日記の編集に集中し、出発10分前になると、幸運にも雨が止んでいた。

雨上がりのotte村に徐々に晴れ間が広がり、傘を差す必要なくバス停に向かうことができた。今日は昨日に比べて10度以上気温が低いため、とても涼しい。

アーネム駅にも無事に到着し、今は乗り換え駅のズヴォレに向かっている最中だ。今も外は晴れているが、フローニンゲン上空の様子はどうか分からない。天気予報では午後の三時まで雨が降る予定であり、一時間ほどフローニンゲン中央駅のカフェで雨宿りをしようと思っている。だが、実際に駅に到着してみて空の様子を伺いたい。もし雨が降っていなければそのまま自宅に戻ろうと思う。自宅に戻って荷物を置き、雨が降っていなければその足で近所のスーパーに買い物に出かける。

自宅に戻ってからは、ゆっくりと旅の振り返りを日記に書き留めたり、作曲実践をしたいと思う。その他にもGRE試験に向けた単語学習を行いたいという気持ちもあるため、学習を積極的に進めていこう。旅に出かける前と同様の方法で、単語集の一周目でチェックマークを付した単語について、即興的に例文を作り、それを何度もつぶやく。同義語についても音読をして、単語のネットワークを身体感覚を通じて構築していく。

今、ズトフェンという小さな駅に到着した。運河を行く二艘の船の姿が見える。雲の隙間から差し込む太陽の光が運河をきらめかせている。

今回の小旅行でも改めて実感したが、オランダは私にとって本当に暮らしやすい国だと思った。この国が持つ落ち着き。長閑な自然。仮に来年オランダを離れることになっても、私は再びこの国に戻ってくるような気がしている。今日からまたフローニンゲンで充実した日々を送っていきたい。ズヴォレに向かう列車の中:2018/7/28(土)12:05

No.1175: Sunday Morning in Helsinki

Today is the fifth day to stay in Helsinki. I thought that the surroundings were very quiet. That is probably because today is Sunday. I'll visit Ateneum which is one of the largest museums in Helsinki, and I want to spend my time relaxing there. Helsinki, 09:41, Sunday, 9/2/2018

2906. 旅を終えて

オッテローからフローニンゲンに戻ってきてからの初日の朝を迎えた。今朝は六時過ぎに起床し、六時半から一日の活動を開始させた。日曜日の今日は朝からとても静かであり、冷たく爽やかな風が吹いている。起床してすぐに寝室と書斎の窓を開けた。

ここ数日暑い日がフローニンゲンでも続き、旅行中に部屋に熱気が溜まっているように思えたので、昨日からいつもより窓を大きく開けている。今日も窓を大きく開けていると、いつも以上に爽やかな風が部屋に流れ込んでくることに気づく。小鳥の美しい鳴き声もいつも以上に部屋に入ってくるように思えてくる。ここ数日間と比べて今日は比較的涼しい。最高気温も30度に達することはない。日中の暑い時間帯でも窓を開けていれば快適に過ごせるだろう。

今日からは再び日常に戻る。旅とは本当に非日常的な感覚をもたらしてくれるものだと思う。一方で、旅で得られた非日常的な感覚のいくらかが日常に帰ってきてても継続していることは不思議に思う。もしかすると、これが旅の本当の意義なのかもしれない。旅は確かに私たちに非日常的な感覚をもたらしてくれるが、それを日常に帰った時にも維持できた時、それこそが旅で得られたものと言えるかもしれない。今継続している非日常的な感覚こそが今回の旅を通じて得られたものなのだ。今日から再び日常が始まるが、この感覚を忘れないようにしたい。

旅から戻ってきたの初日は、旅に出かける前と変わらない生活を送る。日記を書き、曲を作る。そして、来月の第三週目に受験するGRE試験に向けての学習を進めていく。日記に関して、改めて今回の旅を振り返ってみての事柄を書くことがあるかもしれない。旅によって触発された考えや感覚を今日も書き留めていく。曲についても同様だ。

実は旅行中においても宿泊先のホテルで曲を作っており、作曲が日々の完全な習慣になったことを嬉しく思う。何よりも、旅先でも曲が作れるようになったことが一番嬉しい。当然ながら、まだまだ過去の作曲家が残した楽譜をスキャフォールディングにして曲を作ることからは抜け出しておらず、純粹に自分の感覚だけをもとに曲を作ることができるようになるのはまだまだ先のことだろう。だが、ひとまずはこの進歩を喜びたいと思う。小さな進歩に喜びを感じ、その喜びをもとに作曲実践を続けていく。そして、作曲実践をするたびに創作の喜びを得ていく。そうすれば、作曲という行為が絶えず喜びに満ち溢れたものになるだろう。

今日は特にGRE試験に向けた学習に力を入れたい。早朝のこの時間帯からまずは単語学習を進めていく。今日中に単語集の二周目を終わらせることが理想だ。そうすれば、明日からは三周目に切り掛かることができ、八月からは対策問題集やオンラインでの模擬試験を通じてより実践的な学習に移行していくことができる。

今日中に二周目を終わらせるためには、残り120ページほど確認していく必要がある。これを行うためには、チェックマークで付された単語を見る際に、一つの単語にあまり長居をしないことがポイントになるだろう。二周目で全ての単語を習得する必要など全くないのである。要諦は、単語集を何度も繰り返し、最終的に全ての単語を習得することであり、二周目に全ての単語を習得する必要などないのだ。そのため、チェックマークが付された単語については挨拶をするかのように簡単に一つ一つ確認していくことを意識する。例文をその場で作り、それを口ずさむことを行いながらも、一つ一つの単語には時間をかけないようにする。そうすれば、120ページの分量を今日中にこなすことも十分に可能だ。今から早速それに取り掛かりたい。フローニンゲン:2018/7/29(日)07:02

No.1176: At a Quiet Moment

I think I spent a slow and wonderful time in Northern Europe during this trip. I fully enjoyed culture and nature in Sweden and Finland. I appreciate this precious opportunity very much.
Helsinki, 10:05, Sunday, 9/2/2018

2907. 緩やかな時の流れ:一つの巨大な作品に向けて

デ・ホーヘ・フェルウェ国立公園から戻ってきての初日がゆっくりと進んでいる。この時間感覚は、国立公園で感じていたものと似ている。普段よりも緩やかな時の流れを感じ、今日は日曜日であるからさらに休日の時の流れが緩やかさを後押しする。国立公園で聞いた小鳥の鳴き声、そして自宅のすぐそばに聞こえる小鳥の鳴き声の両方がとても美しく感じられる。特に早朝は小鳥の鳴き声がよく聞こえていた。今日は風がとても心地良い。

時刻は午後二時に近づきつつある。書斎の窓を大きく開けていると、爽やかな風が時折部屋に流れ込んでくる。今日の最高気温は29度とのことであり、昨日よりも少しばかり高くなるが、空が雲に覆われているため、体感温度はそれほどでもない。

今日は午前中からGRE試験に向けた単語学習を進めていた。今日中になんとか二周目を終えることができれば理想だが、やはり一日に120ページほど確認するのはかなりの分量であるため、仮に終わらなかったとしても問題ない。明日には必ず二周目を終えることができるだろう。

午前中にチェックマークが付された単語を確認していると、すでに覚えた単語とうる覚えな単語、そして単語の文字からは意味を全く想像できないような単語の三つに大別されることに気づいた。これからは徐々にうる覚えのものをより鮮明な記憶に変えていき、文字からは全く意味を想像できない単語を徐々に意味が想起できるようにしていく。ここでも単語の感覚を掴むことが重要になり、単語が持つ固有の感覚を少しずつ養っていくことを午後からも意識する。

午前中は単語学習と並行して作曲実践を行っていた。まずはバッハに範を求め、短い曲を一曲作った。

私が作曲で大切にしているのは、その瞬間に生起する感覚をあるべき形にすることであり、決して大作のような長い曲を生み出すことではない。一つ一つの曲は短くても問題なく、自分の感覚が完結したと感じられればそれで良い。むしろこうした小さな曲を絶えず生み出していく中で、一つ一つの感覚を完結させていき、それをさらなる感覚につなげていくということが大切になる。私たちの感覚は絶えず自己組織化を行っており、一つの感覚は必ず新たな感覚を生み出していく。

作曲をしながら重要視しているのは、まさに感覚の自己組織化を促すために、一つ一つの感覚に形を仮置きしていくことである。これを行うことによって、感覚が感覚を生むという循環が起こる。

午前中改めて考えていたのは、私は小さな作品を作ることだけに専心しながらも、それを一生涯を通じて行っていこうという意思を持っているがゆえに、毎日の作曲実践は結局のところ完成しえぬ巨大な作品を絶えず製作しているとも言える、ということであった。日々生み出される作品はとても小さなものなのだが、その一つ一つが一つの巨大な作品のなくてはならない部分となり、一生涯を通じてこの巨大な作品は成長を遂げていく。そのような姿を心の中で見ていた。

今日はこれから再度単語学習を行い、その後は久しぶりにドビュッシーに範を求めて一曲作りたい。
フローニンゲン:2018/7/29(日)14:07

No.1177: Dance of Wind and Birds in the End of Summer

Summer in Helsinki seems to end after a while. A dance of wind and birds tells it. Helsinki, 11:22,
Sunday, 9/2/2018

時刻は午後の九時に近づきつつある。今日は一日を通して涼しい日であった。

今は空が雲に覆われており、沈みゆく夕日の姿を見ることはできない。明日は昼から少しばかり雨が降るようだ。それによって気温が下がるわけではなく、むしろ今日よりも少し気温が上がるらしい。明日以降は気温が下がり、最高気温は25度前後となり、最低気温は15度前後となる。一週間前までは異常な暑さを持つ日もあったため、涼しい夏に戻って嬉しく思う。やはり今日のような気温の方が過ごしやすいのは言うまでもない。

今日は早朝からGRE試験に向けた単語学習を進めてきたおかげもあり、無事に単語集の二周目を終えることができた。結局120ページほどの分量を一気に確認していった。本日中に二周目を終えることができたので、明日からは三周目に取り掛かり、明後日からは対策問題集を本格的に解き始める。

今回のGRE試験に向けては、四年前以上に単語を習得することに力を入れるのみならず、ライティングセクションについても対策をしっかりと行っていく。特に、対策問題集に掲載されている模範解答の文章の質感をしっかりと掴み、それと同質の文章を書けるようにしていく。GREのライティングはTOEFL以上に時間に追われるため、短い時間の中で質の高い文章を大量に書けるようにしておく必要がある。これについても対策をしっかりとっておけば、短い時間でも質的に高い文章を大量に書くことに身体が慣れていくだろう。

また、模範解答を何度も音読していただくだけではなく、採点基準についてもこれまで以上に理解を深めたいと思う。ETS出版の公式問題集にはそのあたりの情報も載っているため、それを見逃さないようにする。過去4.5のスコアが最高であったため、今回は5.0を取得することができれば満足だ。

読解のセクションに関しては、単語力を四年前以上に強化すると同時に、読解問題の形式に依拠して戦略を色々と練っていこうと思う。GREの読解セクションは英文が非常に難解であるのに加えて、解答時間が恐ろしく短い。過去の受験では、どれだけ対策をしていても時間ギリギリに終わるか、下手をすると最後の方の問題は適当に解答せざるをえないこともあった。今回の試験ではそのようなことにならないように、難解な問いが出現したらそれを一度飛ばし、他の問題を解いてから再びそ

の問題に戻ってくるなどの基礎的な戦略や、読解のセクションを構成する三つの問題のタイプに応じて、解答する際のポイントが何か、一問あたりにどれだけの時間で解答しなければならないのかをもう一度明確にしていきたいと思う。そうしたことを念頭に置きながら明後日から対策問題集に取り掛かる。

今日は単語の学習はもうやめて、就寝に向けて本日を締めくくる作曲実践を行いたい。今日は早朝にバッハの曲に範を求め、夕方にドビュッシーに範を求めて曲を作った。これから行う作曲実践は再びバッハのコラールを参考にする。様々な作曲家の仕事に支えられながら、毎日着実に曲を作り、その過程を通じて作曲技術を高めていく。明日から新たな週を迎えるが、そうした姿勢は明日からも続いていく。明日の実践、明日の学習が今から楽しみである。フローニンゲン:2018/7/29(日)
20:53

No.1178: Lively Rhythms in Northern Europe

The last day to stay in Northern Europe is approaching the end. It has been always chilly during this trip, but at the same time, I've always felt lively rhythms of vital force in this land. Helsinki,
20:38, Sunday, 9/2/2018

2909. 芸術教育と霊性教育に関する夢

新たな週が今日から始まった。月曜日の朝は昨日までとは異なり、人々が活動を始める時間が早い。今日はゆっくりと六時半過ぎに起床したところ、その時間帯から通勤や通学に向かう人たちの姿をちらほらと見かけた。空の大部分が雲に覆われており、所々に晴れ間が顔を覗かせている。

今日の最高気温は30度近くまで上がるそうであり、午後からは雨が少々降るようだ。明日からはまた涼しい日が続くようであり、気温が幾分高いのは今日で最後となる。七月もいよいよ残すところ二日となった。気づかないうちに夏期休暇に入り、気づかぬうちに夏期休暇が進んでいく。こうした夏期休暇にありながらも自分の取り組みを少しずつ前に進めていきたい。

今日から三日間連続して、異なる協働者の方々とのミーティングがある。三件とも成人発達に関するものだが、それぞれの協働内容は異なる。一つ一つの協働プロジェクトを少しずつ前に進めてい

くことができたらと思う。今朝のミーティングは午前九時半から行われるため、その前にもう一度資料に目を通してこちらの考えをまとめておこうと思う。今年度の後半も幾つかの協働プロジェクトに参与する中で時間が過ぎていくだろう。

芸術教育と霊性教育の探究を進めていくことも私にとっては非常に重要であり、協働プロジェクトに関しては案件を増やしすぎず、現在協働させていただいている方々とのプロジェクトに絞って今年度は仕事をしていく。

今朝方、芸術教育と霊性教育に関する夢を見た。世界で活躍する同年代の画家と音楽家と一緒に、米国のある州の日本人学校を訪れ、そこで講演やワークショップをするという内容の夢だった。

子供たちは小学校の低学年ぐらいだったのではないかと思う。彼らの芸術性と霊性をより豊かに育むきっかけになってくれればと思って今回の企画を実現させた。実際にある画家が子供たちの前で即興的に絵を描き始めると、子供たちは目を輝かせながら感嘆の声を上げていた。それはピアノ演奏者の即興演奏の際にも同様だった。私も即興的にその場で子供たちと作曲をしたところ、子供たちは一様に楽しそうだった。

一人一人の子供には固有の芸術性と霊性が備わっている。残念ながら現代の教育システムでは、ある種画一的な芸術性と霊性しか光が当てられない。光を失うことにより、子供たちが大人になった時、現代の多くの大人のように死んだ目になるのである。こうした状況になんとか介入したいという思いが改めて湧いてくる。

夢の中の自分はそうした感情を内側に感じていた。この夢がどのような形で終わったのかは覚えていない。ただ、子供たちが講演の最中に積極的に質問をしてくれたことや目を輝かせながらワークショップに参加してくれた光景を忘れることはできない。

芸術教育と霊性教育。それらに関する思想を育み、具体的な実践に従事していくことが自分の一つの大きな試みとなった。自分の眼を殺したくはないし、もうこれ以上死んだ目を見たくはない。

夢の場面が変わると、今度はある大学で開催される学会に私は参加していた。自然科学の中でもあまり関心のない分野に関する学会のようであり、私は講演を聞くのではなく、講演が行われる建

物の外でぶらぶらしていた。すると、昨年にザルツブルグで行われた学会で知り合ったオランダ人の若い女性研究者とそこで出会った。彼女の名前をどうしても思い出すことができず、うる覚えのまま“Suth”と呼んだら、「-thの音ではなく、sの音よ」と笑いながら言われた。彼女のニックネームは“Sus”であったかとその時に思い出した。

彼女は講演が行われる部屋に入る前に、「この大学で行われるベートーヴェンのピアノ協奏曲がどうしても聴きたい」と私に述べた。「それは友人のピアニストが演奏するから、場所と時間を調べておくよ」と私は答えた。彼女は笑顔で部屋に入っていき、私はその場で再びぼんやりとしていた。

ベートーヴェンの協奏曲の演奏会について調べる手段のなかった私は、どうしたらいいものかと少し考えていた。すると、その場の空間が変容し、二つの音楽会場が突如立ち現れた。一つは屋内のコンサートホールであり、もう一つは屋外のものだった。私は屋外のコンサートホールで始まった荘厳な演奏に耳を傾け、感動の海の中にいた。どれだけその演奏を聴いたのかわからない。気づいたら夢から覚めていた。フローニンゲン:2018/7/30(月)07:40

No.1179: Morning to Leave Helsinki

It's fine weather today in Helsinki. I'll leave Helsinki after a little while for Groningen. This trip was very fulfilled, and I convince myself that it can enrich my life. Helsinki, 09:03, Monday, 9/3/2018

2910. 決着の日に向けて

旅から戻ってきて二日目の朝を迎えた。今日からは気持ちを新たにして日々の取り組みに集中したいと思う。

ここ最近毎日考えていることとして、一刻も早くこの人生におけるある課題を解決しておこうというものがある。それは端的にはお金に関する事柄であり、カネのために働くことを一切止めるための学習と実践をより本格的に行い、数年以内にカネの呪縛から完全に解放され、そこから自らの取り組みだけに集中した人生を歩んでいきたいと思う。

ここ最近経済金融関係のニュースを毎日調べるようになり、投資に関する学習と実践を始めたのもそのためだ。これを本格的にやらなければ、結局一生を通じてカネのために働かなければならなくなる。そんなことをするために私たちの人生があるわけではない。

カネのために働くという人生の浪費は一刻も早く止めるべきである。そのためには逆説的だが、辛抱強く金融に関する学習と実践を進めていく必要がある。明確な期限はあえて設けていないが、もう来年か数年以内に決着をつけようと思っている。

現在、芸術教育や霊性教育に関する探究を進め、作曲実践やデッサンをしながらも、投資に関する学習と実践を並行して行なっている。確かに金融に関する事柄は大学時代に熱心に勉強していたことではあるが、それは私の魂が求める探究項目ではやはりなく、今は必要に迫られてそれを行なっている。より厳密には、魂の求める探究に真に打ち込むために金融に関する学習と実践を本格的に行い始めた、と言ったほうがいいだろう。

この現代社会で生きていくためには間違いなくカネが必要なのだが、そのカネを得るために働くというような馬鹿なことはしたくない。そのような形で自分の生命時間を浪費するのは愚かであり、カネを稼ぐために自分の人生があるわけではない。そこで再び重要性に気づいたのが金融と投資であった。

正直なところ、私の最大の関心は作ることであり、芸術性と霊性の発達に関するものであるため、金融や投資の勉強を進めることすらも無駄に思えることがある。だが、これをしなければ、結局いつまでたってもカネのために働かなければならないため、今は辛抱強く学習と実践を進めている。今日もそれを進めていく一日になるだろう。

自宅の前の通りの工事が着実に進んでいる。昨日、近所の郵便局に立ち寄る際に工事の進捗状況を確認したが、随分と進んでいるようだった。今朝も七時を過ぎた頃から工事が始まった。ブルドーザーで土をならしている音が聞こえる。今回の工事はドリルを使うものではないので騒音に困ることはなさそうだ。この様子だと八月の初旬から中旬にかけて工事が完成するのではないかと思う。

フローニンゲンでの生活もいよいよ三年目に突入する。正確には覚えていないが、三年前の明日か明後日にフローニンゲンでの生活が始まったのだと思う。それ以降、フローニンゲンの街は至る

所で工事が行われ、街の景観も随分と様変わりした。近所のスーパーに行く際の道やロータリーなどはその好例だ。フローニンゲンの街もゆっくりと変わっていく。そんな街で生活をする自分自身もゆっくりと変わっていくことに気づく。

今日も緩やかな変化を生む一日になるだろう。そうした日々を過ごしながらか、一つ一つ自己と人生を深めていく。フローニンゲン:2018/7/30(月)08:03

No.1180: A Walk in a Forest of Northern Europe

I'll spend time in my daily life as if I were for a walk in a forest of Northern Europe. I'll never hasten my life, but instead, I'll slowly deepen and enrich the quality of my life everyday. Helsinki, 09:20, Monday, 9/3/2018

2911. 創造物からのフィードバック

灰色の雲が上空を覆っている。今日は雲が多いが、どうやら雨は降らないらしい。

自宅の目の前の通りの工事が今日から活発になった。これまでは暑さのためだろうか、工事の進み具合はとても遅く、早朝のごくわずかの時間しか工事がなされていないような印象であった。一方、今日からは朝から午後三時半を迎える今の時間帯まで工事が進んでいる。後ほど買い物に出かけようと思っており、その際に工事の進み具合を確認したいと思う。

今日は午前中に協働プロジェクトのオンラインミーティングがあった。昨年に引き続き、成人発達理論に基づくプログラムを世に送り出すことに再び着手し始めている。昨年と同様に、プログラムを開発する前に調査を行い、調査結果をもとに本格的にプログラムを開発していく。ここ一ヶ月半ぐらひは協働プロジェクト関連のミーティングがなかったため、今日は久しぶりのミーティングであった。今朝方の日記で書き留めた決着の話と矛盾しない形で、今回のプロジェクトのように世の中に形を提供していく仕事はもうしばらく続けていきたいと思う。

曇った空の間から青空が顔を覗かせている。風はとても心地良く、爽やか風が吹く草原にいるかのような心地がする。明日からは今日よりも涼しい気温になるそうであり、とても有り難い。そうこうしているうちに秋がやってくる予感がする。

早朝に、過去に作った曲を聴いていると、幾つかの心象イメージを得た。一つには、誰しものが内側に水晶を持っていて、それは情熱を本来持ち合わせている、というものである。その水晶の固有の輝きは魂の輝きを表しており、水晶を通じてこの世界を見通すことができるかが、澄み渡る認識を持って生きることを握る。

現代社会で生きることを通じて、この水晶が濁ってしまい、多くの人はその濁りにすら気づかない。いや、そもそも自分が一つの水晶を持っているということさえ気づけないのだ。真に情熱を持って己の人生を生きるためには、自分の水晶がどのようなものかを理解する必要がある。

水晶の発見と水晶を通じて世界を見通すことによって得られる解放に向けての歩み。その歩みを支援していくことの大切さについて改めて考えていた。

昨日は、過去に作った曲からまた変わった心象イメージがもたらされていた。自分でも驚くが、自分で生み出した曲から様々なことが喚起されるというのは本当に面白い。

自己の創造物が自己にフィードバックをするという関係が見て取れる。昨日得られたイメージは、あの世の恍惚とする美しさである。それは、他の何物にも代えがたく、地上で生きることの喜びはまさにそれを味わうことにあるのだろう。あの世ではこれを味わえないと措定することが、この地上に留まることを私たちに促す。曲を聴きながらそのようなことを考えていた。

今日はこれからGRE試験に向けた学習を進めていこうと思う。具体的には、単語集の三周目に入る。一つ一つの単語に時間をかけるのではなく、一定の速度で三周目を素早く回していく。明日からは少しずつ対策問題集に取り掛かりたいと思う。ここしばらくは単語周を回すことに時間を使っていたため、読書の時間がほとんど取れなかった。今日は夕食後に少しばかり読書を行いたい。フローニンゲン:2018/7/30(月)15:40

No.1181: End of Summer

When I came back to Groningen, I noticed that leaves of street trees turned red. It told me that summer ended and fall started. Groningen, 08:25, Tuesday, 9/4/2018

時刻は午後の八時に近づきつつある。午前中の雲は随分と晴れ、今は夕日がフローニンゲンの街に降り注いでいる。今日は最高気温が30度に達したため、この時間帯にもまだその暑さが少々残っている。明日からは気温が下がっていくため、今日よりも過ごしやすくなっていくだろう。

作曲に関しては今日も昨日に引き続き、バッハとドビュッシーに範を求めて曲を作った。ドビュッシーの曲については、彼が作品に込めた意味や意図などを十分に掴めておらず、ここに新たな課題があると気づいた。

バッハの曲を参考にした後にドビュッシーの曲に移ると、解析の手が止まり、解釈が難しい箇所が随所にある。今後はそれらの意味と意図を丁寧に紐解いていくことができればと思う。そうした新たな課題意識を持ちながら、これから再びバッハに範を求めて曲を作る。

早朝に二声のコラールを参考にしたため、今からは四声のコラールを参考にしようと思う。短い曲を膨大に作り、それを一つの巨大な作品にしていくこと。それを常に念頭に置いて作曲に取り組む。そうした意識は作曲のみならず、自分が作った曲に喚起された感覚をデッサンした際の絵にも表れている。ここ最近、デッサンをする際に以前に描いた絵と連続するような形をとり始めた。確かに一つ一つの絵は独立しているのが、それらが有機的なつながりを持ち始めていることに気づく。こうしたことが曲の中にも流れ込んでくることになるだろう。

一昨日にオッテローからフローニンゲンに戻ってきたばかりだが、そろそろ八月末の北欧旅行について計画を詰めていく必要がある。今回はフィンランドのヘルシンキだけを訪れる計画だったが、やはりせっかくなのでスウェーデンにも足を運びたいと思う。スウェーデンではストックホルムがどのような街なのかを一度この目で確かめておきたいと思っていたため、ストックホルムを滞在先とする。フィンランドにせよ、スウェーデンにせよ、首都以外にも一むしろ首都以外の方が一魅力的な街があるであろうから、またいつかそれらの街を訪れたい。

ヘルシンキとストックホルムの各都市に四泊ずつすれば十分に見たいものを見れそうである。ヘルシンキについてはすでに美術館や博物館を調べ、どこに行くかの目星が以前から立っていた。ストックホルムについて簡単に調べてみると、ノーベル博物館、ストックホルム市立図書館、スウェーデン

国立歴史博物館、ストックホルム近代美術館、ストックホルム音楽博物館には足を運びたいと思う。先日までのデ・ホーヘ・フェルウェ国立公園での滞在とは異なり、今回は都市に訪れるため、どうしても見物先が美術館や博物館がメインとなる。

だがそれでも北欧の自然に浸るような時間を大切にしたいと思う。上記の美術館や博物館を訪れるのは今から楽しみだが、ストックホルム市立図書館の作りが極めて美しいようなので、先日にロンドンの大英図書館を訪れた時のように、旅の合間にストックホルム市立図書館でもゆっくりとした時間を過ごすようにしたい。そこで日記を執筆したり、作曲を行ったりする。それは旅先での楽しみの一つでもある。

フローニンゲンからストックホルムやヘルシンキへ列車で向かうのは難しそうなので、今回はアムステルダム空港からどちらかの都市の空港に向かう。いまはまだストックホルムに先に行くべきか、ヘルシンキに先に行くべきかを決めていない。飛行機の予約状況や価格などを考慮して、近日中に旅程を決定したいと思う。偶然にも昨年八月にも北欧に旅行に出かけ、今年八月も北欧に行く。北欧は自分を呼ぶ何かがあるのかもしれない。フローニンゲン:2018/7/30(月)20:11

No.1182: Beginning of Autumn

The beginning of autumn implicitly indicates the start of a new chapter in my life. I was absorbed in thought that I was born in this season. Groningen, 08:41, Tuesday, 9/4/2018

2913. 夏の朝の夢

今朝は六時に起床し、六時半に起床した。起床した際に、寝室の窓の外に赤く輝く朝日が見えた。

今日も一日が穏やかに始まった。幸いにも早朝は朝日を拝むことができたが、今日は昼食の前後に雷雨に見舞われるようだ。ちょうど食料が切れかかっているので、買い物は午前中に済ませておきたい。

今この瞬間には風が全く吹いておらず、空に浮かぶ雲も完全に静止している。いつもは緩やかに動く雲を眺めているため、このように静止した雲を見るのは何か不思議な感じがする。太陽を長時間隠してしまうほどではないにせよ、空には雲がまばらに存在している。

今朝方の夢について少しばかり思い出している。夢の中で私は、サッカーの日本代表に選出され、国際試合に出場することになった。実はこの試合の前に、代表選手の候補のための国内合宿に呼ばれ、そこで練習を行っていた。練習の最後に行われた練習試合ではそれほど満足のいくプレーができたわけではないのだが、なぜか私は代表選手に選ばれた。

合宿の最中に印象に残っているのは、11歳の男の子も候補に選ばれていたことである。彼は将来有望な選手のようなのだ。

代表監督の補佐を務めるコーチの元で、この合宿は進められていた。練習の最後に、軽くクールダウンを兼ねたダッシュをしている時に、その11歳の選手に異変が起きた。どうやら足を故障してしまったらしい。おそらく筋肉系の怪我である。その怪我のせいで、その選手は走ることができなくなり、コート横に出た。彼は目に涙を浮かべており、怪我をしたことをとても悔しがっている様子がわかった。彼をなだめるかのようにコーチがやってきて、あれこれ言葉をかけている。しかし、その選手は泣くことをすぐには止めることができず、しばらく泣き続けていた。そこで夢の場面が少し変わった。

国際試合の日がやってきた。その試合はおそらく日本国内で行われたものだろう。ロッカールームには程よい緊張感があり、ロッカールームを出て自国の選手と相手国の選手が整列し、コートに向かっていく際には胸が高鳴った。試合が始まってからの記憶は一切なく、気づけば国内で行われる二試合目の国際試合に向けて準備をしていた。

どうやら私は次の試合ではスタメンで起用されることはなく、この試合では随分と選手を入れ替え、様々な選手を試すようだった。今回の対戦相手である国は韓国であり、ロッカールームを出たところのスペースに整列する韓国の選手たちの表情は相当に気合が入っていた。その場からベンチに向かおうとしていたところ、後ろから誰かに声をかけられた。振り向くと、韓国人の女性がそこに立っており、なにやら私に韓国語で話しかけてくる。

韓国語がわからないので英語で話してもらうことをお願いすると、「パンケーキを食べませんか？」と聞いているようだった。試合直前に食事をすることは控えたかったが、今日は出場予定もないし、その女性が手に持っているケーキが美味しそうに見えたこともあり、せっかくなので小さいケーキを二つもらうことにした。するとその女性は嬉しそうな笑みを浮かべ、ケーキを二つ切り、特別なシロップ

をかけて私に渡してくれた。そのケーキを一旦どこかに置いてから、私はコートに向かう代表選手を鼓舞するように声をかけて行った。そこで夢から覚めた。フローニンゲン:2018/7/31(火)06:58

No.1183: Towards Fulfillment of Autumn

I have a premonition that this autumn becomes more fulfilled than previous ones in the last two years. My life gradually deepens. Groningen, 09:44, Tuesday, 9/4/2018

2914. GREに向けた学習について

たった今、起床直後の日記を一つ書き留めた。そこで空を眺めてみると、雲の形が変わっていることに気づいた。先ほどまでは静止しているように思えた雲が実は動いているようだった。相変わらず地上には一切風が吹いていないのだが、雲がある上空は風が吹いているのだろう。昼食の前後に雷雨に見舞われるとのことであり、ここから空の様子もさらに大きな変化を見せるだろう。

今日はこれからGRE試験の対策に向けた学習をまず行う。時間にして一時間ほどそれを行う。

ここ最近薄々気づいていたが、単語学習を長時間行っていると、どこか思考が鈍くなり、自分から何かを外側に生み出していこうとする力が減退することに気づいた。この感覚は詰め込み教育を受けた時の感覚に似ている。詰め込み教育が愚鈍な思考を生み出すというのは一理あるが、それよりも問題なのは、そうした教育が自分から何かを生み出していこうとする力を奪ってしまうことなのではないか、ということに気づかせてくれるような感覚があった。

八月の第三週目にGREを受験した後は、おそらくもうこの試験を受けることはないであろうから、抜きたくなく対策をしていく。ただし、私の場合は対策に向けた学習が極端なものになりがちなので、少々学習を抑えていく。GRE試験に向けた学習だけをして毎日過ごしては決してならず、程よい学習時間を確保しながら引き続き自分の探究活動や創造活動を続けていく。今日はそうした観点からも、ここ数日以上に読書を行いたいと思う。ここしばらくは書物を読む量が随分と減っており、その分創造活動に時間を充てていたため、それは決して悪いことではないのだが、自分の内側から本を読みたいという欲求のようなものが生まれている。今日はそれに従う形で、机の上に置かれた書物を読み進めていくことにする。

これから一時間ほどかけてGRE試験に向けた学習をした後に、作曲実践に取り掛かる。今日は久しぶりにバッハのフーガを参考にしたいと思う。ここしばらくはフーガの曲を作っておらず、昨日急にフーガの曲を作りたいと思うに至った。これも読書に対する欲求と同じであり、創作に伴う衝動のようなものである。バッハのどのフーガを参考にするかはまだ決めておらず、参考にしやすいものを直感的に選びたいと思う。フーガに加えて、毎日の日課になっている二声のコラールも参考にしながら曲を作っていく。三曲目を誰のどの曲にするのかはまた時間が経ってから決めたいと思う。いずれにせよ、今日も少なくとも三曲ほど小さな曲を作っていく。

時刻は午前七時を迎えた。遠くの方で道路の工事が始まった音がする。オランダの作業員たちの朝は本当に早い。このような時間から黙々と仕事に取り掛かる彼らの姿を見ていると、色々と思うことがある。自宅の目の前の通りを今改めて眺めてみると、工事が順調に進んでいる姿を確認することができた。歩道の下の土をならし終えたようなので、そろそろ新しい石版がその上に置かれることになるだろう。着実に進んで行く工事の様子を見ながら、私も自分の仕事を着実に前に進めていこうという気持ちになった。フローニンゲン:2018/7/31(火)07:19

No.1184: An Autumn Dolphin

It is the fine weather today in Groningen, and it is warmer than in Northern Europe. The atmosphere feels like as if an autumn dolphin were swimming in the sky. Groningen, 16:50, Tuesday, 9/4/2018

2915. 再渡米とEU圏の永住権

記憶が正しければ、明日からオランダでの三年目を迎える。オランダにやってきたのは今から三年前の八月一日だったように思う。その日はちょうど母の誕生日だ。明日は母にお祝いのメッセージを送ろうと思う。

欧州での生活も三年目を迎える。相変わらず私は独りだ。毎日間日、自分と向き合い、自分の内側から外側に形になるとするものを形にするだけで一日が終わる。日記の執筆、作曲、デッサン、読書。これら四つが毎日の主な活動である。確かに、今も日本企業との協働プロジェクトが進んでいる

が、基本的に毎日自分は独りである。独りになるということ、そして独りで自らの取り組みを前に進めていく日々がこれからも続くだろう。

下手に他者を自分の生活や活動の中に入れないこと。これを何としても守りたいと思う。要諦は、「下手に」他者と関わらないことであり、完全に他者との関わりを絶つことではない。あまりに多くの人が下手に他者と付き合い過ぎているのだ。そういう人に限って自分のこうした生活のあり方を批判するだろう。結局そうした人たちは、下手に他者と付き合うことをやめることを恐れているのだ。そして何より、そうした人には生涯をかけて取り組むべき対象がないのだと思う。仮にそうしたものがあれば、必ず独りになるだろうし、他者と下手に関わることをしないはずである。

異国の地で生活することによる幸運は、独りになるという恵まれた環境を与えられたことだった。オランダで過去二年間生活することを通じて、それなりに友人ができた。大学院で一緒に学んだ人たちの中でそうした友人が自然と生まれた。彼らとの関係性で有り難く思うのは、無駄な関わり合いがないということである。日本で生活することの居心地の悪さは、無駄な関わり合いの多さだったように思う。

もともと私は人付き合いは多い方ではないが、それでも日本においては何かと無駄な付き合いがあったように思う。気を遣うような人間関係を継続することは限りなくゼロにしていく。

今後の生活については少しばかり考えがまとまり始めており、芸術教育と霊性教育に関する探究を本格的に行うため、来年は再び大学院に所属したいと思う。現在希望しているのはアメリカの大学院である。以前から学位の種類や数は一切関係なく、自分が学びたいことを学びたい形で学ぶことだけを考えるようになり、結局今度アメリカの大学院に所属することになれば、四つ目の修士号になる。

その大学院で提供されている芸術教育のプログラムはフローニンゲン大学と同様に一年間のものであり、もしかすると霊性教育に関する哲学思想を深めるために、もう一年その大学院に残るかもしれない。その時はその大学院が提供している特別プログラムに所属する形を取ることができればと思う。そのプログラムも修士課程であることに変わりはないので、もしかすると二年後までには五つ

ほど修士号を取得しているかもしれない。今のところその他に学びたいこともないので、それ以上修士課程に所属することはないだろう。博士課程に進学するかはまた時間をかけて考えればいい。

幸運にも米国の大学院に進学することができれば、一つもしくは二つのプログラムの終了後にOPTを活用して一年間ほどアメリカのその都市に滞在したい。そうすれば、米国に二年から三年ほど滞在することができるだろう。その後に関しては、私はやはりオランダに戻ってこようと考えている。アムステルダム郊外を第一希望にし、その他にはロッテルダムも生活地の候補として考えている。

次にオランダに戻ってくるときにはフリーランスによる居住許可を取得し、そこから五年間連続してオランダで生活することによって永住権を獲得したいと思う。これまでどこの国にも落ち着くことのなかった自分が落ち着く場所を探し始めていることに気づく。

オランダは自分が落ち着くことのできる場所であることがこの二年間の生活を通じて見えてきた。オランダで永住権を獲得すれば、EU圏であればどこの国でも生活をするができるようなので、将来にはオランダ以外の国に住むかもしれない。そのような生活の姿がおぼろげながら見えてきた。自分もそろそろ落ち着く時期に差し掛かっているのだろう。フローニンゲン:2018/7/31(火)07:45

No.1185: View of Autumnal Tints

A view from the window in my study became autumn-like. Street trees began to become red.

Groningen, 08:15, Wednesday, 9/5/2018

2916. 雷雨の前に

今日は七月最後の日となった。明日からいよいよ八月に入る。今朝のフローニンゲンは、世界の羽が輝いているかのような様相を呈していた。一変して今は、天気予報の通り、黒い雲が空を覆い始めた。ちょうど昼食前に買い物に出かけた時は晴天だったが、どこことなく湿度を感じた。また、遠くの空に不気味な雲の塊を見つけており、雨がやってくる予感がなんとなくしていた。天気予報が正しいければ、これから一時間以内に雷雨に見舞われる。雷雨が過ぎ去れば再び晴れがやってくるそうだ。雷雨に見舞われようとも今の私の気持ちはそれほど変わらないだろう。むしろ雷雨を歓迎し、その様子を思う存分観察したい。

日々が優しさに抱擁されているという感覚が日増しに強くなる。明日から欧州での三年目の生活に入るが、明日からもより一層この平穏な感覚の強さが増していくだろう。毎日が穏やかに過ぎ去り、平穏さで始まる生活。明日からもそうした生活を継続させていく。

今日はこれから仮眠を取り、仮眠後に協働プロジェクトに関するオンラインミーティングを行う。こちらのプロジェクトに関するミーティングは一ヶ月振りであり、プロジェクトの進捗度合いを聞くのが楽しみである。数日前に送っていただいた資料に目を通すと、身体知と発達に関する大変興味深い知見と実践方法が盛り込まれていた。それらの内容については私も参考にするが多いように思った。

ミーティングが終わったら、過去の日記を少しばかり編集する。絶えず日々日記を執筆することに合わせて、過去の日記を毎日少しずつ読み返していくこと。それらの双方が習慣になっている。その習慣は本当に私の人生を豊かにしてくれているように思う。文章を書きながら今に生き、過去の記事を読みながら今に生きていくということ。どちらも起点は絶えず今にあるのだ。

以前の日記を読むことに関してもそうだ。それを読んでいる自分は今の私に他ならない。こうなってくると、何をしようとも絶えず自分が今にいることが見えてくる。そしてそれが実感としてわかってくる。さらには、実感すらも手放す形で真に今の中で生きれるようになってくる。そのような感覚が少しずつ研ぎ澄まされてくる。欧州での三年目はそうした感覚がより一層磨かれていくだろう。

感覚を養うのは文字通り、自分の体をどの環境に置くかがカギを握る。感覚の出発点は絶えず身体であり、その身体がどのような環境に置かれているかが大切なのだ。今の私にとって、オランダのフローニンゲンほどに自分の感覚を磨いてくれる場所はないだろう。今年一年は感覚をさらに養っていくような年になるにちがいない。

空がどんどん暗くなっていき、もう少しで雨が突然降り始めるだろう。仮眠を取り、ミーティング後に日記の編集を終えたら、午前中に引き続き作曲実践を行う。その際にはバッハのフーガに範を求める。その時にもし雨が降っていればその雨を見ながら得られた感覚を少しでも曲の中に盛り込みたいと思う。仮に雨が上がり、晴れていれば、雷雨の後の晴れがもたらす感覚を曲に盛り込みたい。

一つ一つの曲は絶えず自分の固有の感覚とつながっており、一つの曲は自分の分身なのだ。自分から生み出される創造物の全ては本当に自分の分身なのだと思う。フローニンゲン:2018/7/31 (火)13:11

No.1186: Transformative Effects of Music Composition and Drawing

Since I began music composition and drawing of my inner senses, how to use my imagination has transformed. I'll continue to hone my skills to express at will what I feel and see through my eyes of mind and spirit. Groningen, 08:32, Wednesday, 9/5/2018

2917. 芸術教育と霊性教育の探究に向けて

今日は普段よりも随分遅く七時に起床した。昨夜の就寝の時間はいつもと同じ通り十時だったのだが、なぜか今朝は多くの睡眠を必要としていた。起床した直後も少しばかり睡眠が足りないような感覚があったが、日課である身体運動を行っていると、徐々に身体が目覚めてきた。今はすっかり活動に向けた身体状態が出来上がっている。数日前にオランダ国内旅行から戻ってきて、その調整が行われているのかもしれない。

時刻は七時半に近づきつつある。今日もこの時間帯から目の前の通りの工事が始まった。作業員の人たちの朝はとても早い。

昨日の昼食前に近所のスーパーに出かけた時に工事の進捗度合いを確認してみると、随分と作業が進展していることに気づいた。早朝、どこからともなく作業員が現れ、夕方になるといつの間にかいなくなっている。このように、人間の仕事は誰も見られていないところで着実に進んでいくという本質を持っているのかもしれない。

芸術教育と霊性教育の探究。それらに対する思いが日増しに強くなっていく。もうそれは抑えようのないものとして内側にあるだけではなく、押さえる必要のないものとしてそこにある。芸術教育と霊性教育は相互に影響を与え合う関係になっている。芸術は霊性を育み、霊性は芸術を育む。子供と成人の双方に向けたそれら二つの教育が持つ意義について考えを深めていく。そしてそれらの教育に関与していくための自分なりの実践方法を見つけていく。実践方法についてはもうその外形が

見えてきている。あとはその形を磨き、実践方法それすらも深化を遂げていくようにしていく必要がある。

幼少期の頃に芸術性と霊性を育むことの大切さ。その重要性についてこれから多角的に探究をしていく。成人を迎えてからも私たちは芸術性と霊性を育むことができるということ。これについても探究を推し進めていく。

成人発達理論の中でもより霊学的な探究者の書物や論文を参考に、成人の芸術教育と霊性教育の探究を深めていく。今のところすぐに博士課程に進むことは考えていないが、芸術教育と霊性教育というテーマであれば博士論文を書いてみたいという思いが少しずつ芽生えている。今はとにかく、それら二つの教育に関する土地勘を養っていく時期だ。

気づけば私は、知らず知らずのうちに学校や両親の支援によって芸術性と霊性を養っていたのだと思う。この世界には意識的に芸術性と霊性を育んでいく教育機関があることを知っている。シュタイナー学校はまさにそうした教育機関の一つだろう。そこではどのような教育思想のもとにどのような教育実践が行われているのか非常に興味がある。

また、以前日記に書き留めていたように、美術館での子供や成人に向けた教育プログラムや音楽スクールにおける教育プログラムにも関心を持っている。今から数年間をかけてゆつくりと探究を深めていくのはそうした領域になるだろう。今年一年間はその探究に乗り出していく準備を入念に行う。様々な調査をしながら、日々の創造活動を通して自らに芸術教育と霊性教育を施していきたいと思う。今日はより一段と世界が輝いて見える。フローニンゲン:2018/8/1(水)07:41

No.1187: Statue of Time

The flow of time today is slow as usual or slower than usual. A statue of time is walking slowly.
Groningen, 10:04, Wednesday, 9/5/2018

2918. 芸術教育と霊性教育の探究に向けた出発点

新たな流れが自分の人生にもたらされている。そんなことをふと思った。

それは自らの探究に関する関心の変化にも表れているし、協働関係の仕事の種類にも表れている。自分の内側に何かしらの変化があり、それが自らの関心と人間関係を変化させていく。

書斎には今日も冷んやりとした涼しい風が流れ込んでいる。自分の人生に新たな流れがもたらされ、私はただその流れに沿って生きているようだ。実際には、「流れに沿う」という能動的な動詞が用いられるような感覚ですらもない。あまりにもそれは自明であり、自然な事柄なのだが、あえて自然言語を用いてそれを表現すれば、「流れに沿う」という言葉が生まれてきたにすぎない。厳密には、自己が即流れであるという感覚がそこにある。自己も流れも感覚も、ただそこにあるのだ。今、それを感じている。

芸術教育と霊性教育について早朝の日記で書き留めていた。その探究の出発点はどこかを少しばかり考えていた。いかなる探究も常に自己を出発地点としなければ探究が成り立たないことは前にも日記に書き留めた。そのため、それらの探究についても必ず自己を出発点にしていく。それは例えば、日々の体験を芸術教育や霊性教育に関連付けて考え、その考えを日記に書き留めておくことであつたり、作曲やデッサンの実践を毎日進めていくことそのものも出発点になりうる。さらには、旅に出かけるというのも自らの感性を育むという観点において、芸術性や霊性の涵養と切っても切れない関係にあるだろう。

とにかく、芸術や霊性に関する直接体験を豊かに積んでいくことが探究の出発点となるだろう。それに並行して、今後はより一段と芸術教育や霊性教育に関する書籍や論文を読んでいきたいと思う。これらの領域についてはまだ観点が圧倒的に欠落している。数ヶ月前から購入し始めていた関連書籍を、この夏から徐々に読み進めていきたい。

関心の焦点は芸術教育や霊性教育のみに置く。それぐらい徹底した意識を持って探究を進めていく。こうした探究を進めていく際に、当然最初は独学で諸々の学習を進めていくが、やはり体系的な学びを得るということ、もしくは自分が盲点となっていた項目についても探究を進めていくためにも、大学院に戻るというのはやはり一つの選択肢だ。できることならば来年に米国の大学院に行こうと思っているのも、そうしたことが背景にある。

子供と大人のための芸術教育と霊性教育。それらが明示的に謳われていなくても、例えば美術館が提供するガイドツアーは子供や大人の芸術性を育むきっかけになりうる。私はその光景を欧州の様々な美術館で見てきた。毎回美術館に足を運ぶたびにそのようなプログラムが子供や大人に提供されているのを目の当たりにしてきたのである。おそらく既存のプログラムには固有の教育思想や教育実践の方法が活用されているはずであり、同時に芸術性を育んでいくという観点においては改善の余地があるのも確かだろう。

そうしたことを見極めるためにも、今後は美術館に協力を仰いで探究を進めていく必要があるかもしれない。美術館に協働者になってもらい、美術館の支援を得ながら芸術教育について探究していく。そのような姿が見え始めている。また、そこでは芸術教育のみならず霊性教育についても合わせて探究を進めていく。芸術教育と霊性教育は対になっており、隣り合わせになっているのだから。

先日、デ・ホーヘ・フェルウェ国立公園を訪れた時、雄大な大自然を眺めるガイドツアーが存在していることに気づいた。それには参加していないが、こうしたツアーも自然を通じて霊性を育むことにつながり得るのではないかと思っている。

そのようなことを考えていると、来年の初旬に参加予定のオーロラツアーなども霊性を育むものになりうる。現代社会においてはそれが全てツアー化されてしまっているのだが、そうしたツアーにも霊性を育む可能性は残っているはずであり、さらに意味のあるツアーにするための余地も残されているだろう。芸術教育にせよ、霊性教育にせよ、既存のガイドツアーが持っている意義を理解し、そこに欠落しているものは何なのかを、自分の直接的な体験を通じて理解していきたいと思う。まずはそうした地道な活動から出発したいと思う。フローニンゲン:2018/8/1(水)08:08

No.1188: Milk Coffee in the Autumn Sky

I'll go for a walk to a cheese store from now. Today's sky is creamy as if milk coffee spilled.

Groningen, 15:43, Wednesday, 9/5/2018

今日はとても涼しい。爽やかな風が、開けた窓から書斎の中に流れ込んでくる。こうした涼しい夏こそがフローニンゲンの夏だと改めて思う。

白く薄い雲が空に散りばめられている。空の広大さをぼんやりと眺めていると、心がますます穏やかなものになっていく。

静かさと華やかさのある生活。生活それ自体は極めて質素なのだが、その質素さが華やかさを生み出しているように思える。

日常に目にする物事が華やいで見え、心の中に何とも言えない輝きをもたらされる。日々私はこの街でそのような輝きに包まれる形で生きている。

今朝起床した時、自分がとても長い夏休みの中にいる感覚があった。開かれた窓から流れ込んできた早朝の冷たい風、そして辺りの香りが夏休みのような感覚を引き起こしたのである。日々が夏の祝祭のようである。そんなことを思っていた。

起床時に自分の両手を確認すると、手荒れが完治の方向に着実に向かっていることに気づいた。以前立てた仮説をもとに色々と実験をした結果、それが良い方向に作用したようだ。それらの要点は極めてシンプルなものであり、肌に刺激を与えることを極力減らすために、洗剤を薄めたり、手を洗うことを極力控えたり、料理を控えることであった。さらには保湿をしっかりすることもポイントであった。そうしたことに気を付けていると、秋の足音が聞こえてきそうな今になってようやく手荒れが回復に向かっていくことになった。確かに回復までに時間がかかったが、確実に完治の一手手前まで来ている様子を見ると、これまで手荒れによって不便をしていたので大変嬉しく思う。これから徐々に秋に向かっていくが、秋以降はなお一層手荒れには気をつけたいと思う。

今朝はバッハの二声のコラールに範を求めて一曲ほど作った。昼食後に協働プロジェクトに関するオンラインミーティングがあり、それが終わったら大学の図書館に行き、契約関係の書類を印刷したいと思う。その後自宅に戻ってきたら、再び作曲実践に取り掛かる。午後からの作曲はモーツァルトの曲を参考にし、時間が許せばテレマンの曲にも範を求めて一曲作りたい。

昨日バッハの曲を参考にしていた際に、音楽の理解可能性について考えさせられた。単なる混沌とした音符の羅列には人々は音楽を見出せないことは言うまでもないかもしれないが、それではいかにすれば音符の羅列を美しく響かせることができるのか、という作曲の原点に回帰するような問いと向き合っていた。そこにはもちろん、一貫性と多様性を曲に持たせることが鍵になってくるのだが、その塩梅がやはり難しい。参考にしていたバッハの曲はそのあたりが卓越の境地にあり、そうした境地に向かっていくためには何が必要なのかを考えていた。

自分の内側の感覚をあるべき形で外側に表現していく際に、それが常に美しいものになるとは限らないことは確かである。それは重々承知しているのだが、それすらも美的な要素を含むように曲として表現するにはどうしたら良いかを模索していこうと思う。午後からの作曲実践は、その実現に向けた極めて小さな一歩かもしれないが、その一歩がなければ一生かかってもその境地には辿り着けない。とにかくゆっくと歩き続けること。

毎日、絶えず曲を作り続けていくこと。自分の生は日記を書くことと曲を作ることと不可分かつ同一のものであるということをもう一度思い出し、日記と作曲を通じて今日も生きて行く。フローニンゲン：2018/8/1(水)12:05

No.1189: Shimmer of a Quiet Morning

I got up at 6AM, and the outside was dark. It is 7AM now, and I can see a shimmer of the quiet morning. Groningen, 07:15, Thursday, 9/6/2018

2920. 夏の恵み

たった今、街の中心部での買い物から自宅に戻ってきた。今日は本当に素晴らしい天気であり、それでいて暑さはそれほどではなく、むしろ涼しいぐらいであった。

午後一番に協働プロジェクトに関するオンラインミーティングを行い、それが終わった後に、大学の図書館に行き、協働プロジェクトに関する契約書を印刷しに行った。大学に向かう途中にノーダープラントソン公園を通った。公園内には日向ぼっこをする人たちの姿を多く見かけた。彼らは芝生

にマットを引き、その上で寝転がったり、連れと話し合ったりしている。また木陰の下では、マットの上に寝転がりながら本を読んでいる人の姿も見かけた。

夏の午後の平穏な世界がそこに広がっていた。ノーダープラントソン公園内の青々と茂る草花の様子を見ていると、活力が湧いてくるから不思議だ。それは自分の内側から静かに湧き上がるような活力である。公園内の世界は輝いて見え、そこにいる生きとし生ける全ての生命の輝きが眩しく思えた。公園を抜け、大学に到着した時、人影がほとんどなかった。

建物の一階にはいつもの守衛がいたが、その他には博士課程に在籍している人物らしき人が何人かいたのと、若い教授がちらほら建物にいたぐらいである。生徒も教授も一様に夏期休暇に入っているようだった。

社会科学棟のコンピュータールームに向かい、そこで契約書を印刷した。印刷しながら考えていたのは、近々紙媒体の契約書もなくなるだろうということだった。ブロックチェーン技術の一つであるスマートコントラクトというものを活用すれば、もう紙媒体の契約書など要らないはずなのに、ということ思いながら印刷機から契約書を印刷した。スマートコントラクトを含め、ブロックチェーンに関する諸々の技術が一般普及する日を想像しながら印刷を終え、コンピュータールームから外に出た。

社会科学棟の中には終始一貫して人気の少ない様子が漂っていた。季節が夏季休暇の真っ只中であるということを実感させてくれたのは、その後に向かった街の中心部での光景だった。この季節のフローニンゲンの中心部は夏の陽気さを持っており、屋外のカフェやレストランで飲食を楽しむ人たちの表情はとても幸せそうである。彼らの表情を見ていると、それぞれがその瞬間の人生を楽しんでおり、太陽の光を浴びながら夏の恵みを文字通り全身で享受しているのがわかる。

この夏を謳歌しているのは彼らだけではなく私もそうだ。確かにあと少しすれば厳しい冬がやってくるが、今はとにかく夏の恵みを全身で味わうだけである。

道端で生命力を発露させている草花の姿。街のカフェで幸せそうに談笑している人々の姿。そうした姿を見るたびに自分の中にも生きる活力と幸福感が湧いてくる。この事実がまさに、自分は独りで生きているわけではないということを強く物語っている。生命力と幸福の共有が全ての存在となされている。それに気づくことができる。

街の中心部を散歩し、行きつけのチーズ屋に立ち寄ってから自宅に戻った。今日はこれからモーツァルトに範を求めて曲を作り、夕食後からは読書を行いたい。

明日からはいよいよ本格的にGREの対策問題集に取り掛かり始める。今日の早朝に単語集の三周目を終えたため、これから本腰を入れてGRE対策を行うことができる。ただし、これまで単語の学習にかけていた時間ほど学習時間を確保する必要はない。過去に何度もGREを受けていることもあり、これから行うのは、各セクションの問題を解く際の明確な戦略を構築することと、その戦略が実際の試験の場で活用できるように訓練をしておくこと。そして最後に、各セクションの形式に慣れていくことを心がけたい。

明日からのGRE対策は比較的短い時間の中で集中して行っていく。そうすれば、読書の時間や作曲をする時間を十分に確保することができるだろう。フローニンゲン:2018/8/1(水) 17:21

No.1190: Towards Somewhere

Today's morning has no winds. Even if our life looks motionless, it is always moving towards somewhere. Groningen, 07:28, Thursday, 9/6/2018